

## ■ 検討会議意見及び市民意見を踏まえた市の対応方針

市の対応方針	
継続する	
(1) 事業の必要性について	<p>近年の海上輸送は物流コストを削減するため船舶の大型化が進んでいる。</p> <p>利用者へのヒヤリングにおいても、10,000DWT 級の大型船舶の利用計画があると回答があり、泊地(-9.0m)はこの需要を逃さないために重要な機能と考えている。</p> <p>また、暫定稼動により、年間取扱貨物量は20万トン(25年実績)まで順調に回復しているが、最終的には泊地(-9.0m)の整備完了により、全ての機能が発揮され、新若戸道路の整備前の年間取扱貨物量(25.2万トン)まで回復すると想定している。</p> <p>こうしたことから、今のところ、当ふ頭を中心とする物流の効率化、背後地区の活性化を図る上で残事業である泊地(-9.0m)の整備は継続して実施する必要があると考えている。</p> <p>なお、今後も社会変動を踏まえ、荷役実績や代替バースでの対応可能性を考慮の上、残事業(泊地(-9.0m)整備)の必要性について、検証を続けていく。</p>
(2) 事業延長による影響について	<p>海上輸送における船舶の大型化は、物流の効率化を図る上で重要であると認識している。</p> <p>当ふ頭においては、取扱貨物量は順調に回復しており、整備済みのふ頭機能が暫定稼動により、十分に発揮されていると考えている。</p> <p>泊地(-9.0m)の整備が完了するまでは、泊地(-7.5m)で対応できる5,000DWT 級船舶で荷役需要を補完しつつ、船舶の大型化に向けた利用者ニーズや年間取扱貨物量の動向を検証して、当事業のできるだけ早期の完了を目指していく。</p>